

令和 4 年 2 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13286

研究課題名（和文）現代インドにおける文化産業の多層化—ポリウッド映画と地域語映画の相関関係を事例に

研究課題名（英文）Cross-Border Circulation within the Indian Film Industry

研究代表者

飯田 玲子（IIDA, REIKO）

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特定助教

研究者番号：10757587

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、グローバル化を志向するインドのポリウッド映画界と、地域に根ざした映画を制作するマハラシュトラ州のマラーティー語映画界の相関関係の分析を通じて、多層的に成立しているインドの文化産業の実態を明らかにする事を目的とした。その結果、両映画界のあいだで、資本や技術、人材が循環していることが明らかとなった。また、大衆芸能からの音楽や歌詞、踊りなども要素として入っていることが明らかとなり、地域語映画へ大衆芸能の要素が流れ込み、それがポリウッド映画へとさらに発展していくことも明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はインド映画を事例に、文化産業が多層的に成立していることを明らかにした点に学術的な意義がある。特に文化研究の分野においても、グローバル化とヴァナキュラー化を単なる対立項として設定するのではなく、両者が共振的な関係にあり、相互補完的な関係にあることを明らかにした。こうした映画研究の新たな研究手法の確立は、映画研究のみならず、世界各地の文化研究や文化動態を分析する新たな視角を提示するものである。また、グローバリゼーションとローカリゼーションをめぐる議論に対して、具体的な事例による分析を行うことで、グローバル下の現代社会を理解するための方途を示したことに意義がある。

研究成果の概要（英文）：This research aims to analyze the cross-bordering and circulation of filmmakers, actors, musicians, motifs, and fabrication costs within Indian films. Previous research on Indian cinema, Bollywood films, and other Indian regional films was considered in separate discussions. However, many practitioners and their technical and cultural know-how have circulated among these film industries. For example, when a practitioner from Bollywood films works in a regional movie, the shooting and editing skills are imported into the regional film industry. Similarly, when a regional filmmaker works in a Bollywood film, he or she brings the regional essence and cultural motif into the Bollywood film. The technicians of the Indian film industry are perpetually in motion between Bollywood and regional movies. Therefore, it is important to consider the relationship between Bollywood and the regional film industry.

研究分野：地域研究

キーワード：インド映画 ポリウッド 地域語映画 マラーティー語 大衆芸能

1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初の学術的背景は、既往のインド映画研究のなかでは焦点が当てられてこなかった地域語映画に着目し、巨大資本で製作され、海外でも盛んに公開されるハリウッド映画との対比をおこなうことで、インドの文化産業の多層化を明らかにしようと試みたことである。

これまで、ハリウッド映画の研究は多くなされてきたが、それは絢爛豪華な映画の世界を鑑賞する事によって、束の間の現実逃避が可能な大衆娯楽として捉え分析するもの (e.g. Rao 2007) や、海外での需要に伴うグローバル化を志向する流れの分析 (e.g. Kavoori, A and Punathambekar, A 2008) がその大半を占めてきた。ハリウッド映画はヒンディー語で制作されるが、インドには他にも多様な地域言語が存在しており、地域言語で制作される「地域語映画」も、近年制作本数の割合が増えている (山下・岡光 2010 年)。しかし、これまで地域語映画に関しては、グローバルハリウッドに対抗するローカルのものという単純な説明にとどまってきた。これまでの文化研究においては、グローバル化とヴァナキュラー化が同時進行的に存在することは一般的に指摘されてきたものの、両者の相互関係がどのようなものであるかについては、ほとんど研究されてこなかった。

2. 研究の目的

上述の背景を受けて、本研究ではグローバル化を志向するインドのハリウッド映画界と、地域に根ざした映画を制作するマハーラーシュトラ州のマラーティー語映画界の相関関係の分析を通じて、多層的に成立しているインドの文化産業の実態を明らかにする事を目的とした。

現在、グローバルを志向するハリウッド映画に対して、ローカルなものを希求する地域語映画のマラーティー語映画が隆盛する状況が生まれている。二つの世界は決して対立して分離しているのではなく、人・モノ・知識・技術が循環しながら多層的に構成されている。地理的には、ハリウッド映画もマラーティー語映画も、同じマハーラーシュトラ州で制作がおこなわれており、マラーティー語映画で実績を積んでハリウッドに進出するものもいれば、ハリウッドからマラーティーに進出するものもいるなど、二つの世界は決して対立して分離しているのではなく、人・モノ・知識・技術が循環しながら多層的に構成されている。

本研究では、インド映画産業の多層化の動きとそのなかの文化交流の様相を描き出すために、以下の3点を明らかにする事を目的とした。

(1) マラーティー語映画とハリウッド映画界の相関関係

マラーティー語映画とハリウッド映画界の性質の差異を明らかにし、その上でどのように両者の間の交流が存在し、【ハリウッド マラーティー】という相関関係が成立しているのかを、制作サイドから明らかにした。

(2) グローバル化とヴァナキュラー化の構造理解

映画産業を事例に、文化産業におけるグローバル化 (ハリウッド映画) とヴァナキュラー化 (マラーティー語映画) の同時進行が可能になっている現在の状況を構造的に説明し、それが起きている様態を明らかにした。

(3) グローバル/ローカルに関する議論の再構築および新たな理論化

インドの文化産業が多層的に構成されていることを明らかにする事を通じて、世界各地で進行している文化のグローバル化や、ローカル化に関する議論の再構築をおこない、新たに理論化することが、本研究の最終的な目的となった。本研究では、インド映画産業の多層化の動きとそのなかの文化交流の様相を描き出すことを目指した。

3. 研究の方法

本研究では、ハリウッド映画とマラーティー語映画の相関関係を明らかにする為に、本研究では (a) 資本、(b) 技術・人材、(c) モチーフ、(d) 歌やダンス、振り付けの4つの項目に関して、ハリウッド映画とマラーティー語映画の間に、どのような有機的なつながりが存在しているかを、映画制作者を中心に研究を進めた。また、映画産業にバックダンサーや音楽演奏者として関わる大衆芸能の担い手へのインタビュー調査もおこなった。研究方法としては、参与観察と、聞き取り調査に基づくフィールドワークと民族誌記述を核とし、オーディオビジュアルを含めた現地語資料の収集と、文献調査によって研究を補完した。

平成 29 年度は、(a) (b) に関する現地調査をおよび、史資料読解をおこなった。

(a) 資本状況：大資本によってサポートされるハリウッド映画に対して、中小企業を広くスポンサーとして集めており、キャスティングの面や、映画の題材に関して比較的自由に制

作できる環境にある。両者の制作環境の違いを資本状況から明らかにするため、ハリウッド映画のスポンサーおよびマラーティー語映画のスポンサーへ出資の意図に関しての聞き取りをおこなった。制作会社に対しても、スポンサーとの関係やコネクションに関する聞き取りをおこなった。

(b) **技術・人材の循環**：映画制作の技術や人材が、どのように循環しているのかを明らかにする為に、制作者(シネマトグラファー、エディター)の技術習得過程および、ライフコース、キャリアパスに関して、マラーティー語映画の撮影に長年携わっているカメラマンや、ハリウッド映画とマラーティー語映画の両方で撮影経験のあるカメラマンらへのインタビューをおこなったほか、インド・マハラシュトラ州プネーにある映画・テレビ大学の制作技術コースに聴講参加して参与観察をおこなった。

平成 30 年度は (c) ~ (d) に関しての現地調査および史資料読解をおこなった。

(c) **モチーフの相互参照**：ハリウッド映画制作で得た資本を手に、地域語映画に戻り、自分たちの言葉で撮影する人が存在している。彼らは、どのように活動の場所を棲み分けているのか、また地域語映画で用いられるモチーフ(e.g. 社会問題)を、グローバル志向かつ、世界中にオーディエンスが存在するハリウッド映画の中にどのように組み入れているのかを、映画制作者(特にディレクター、スクリプトライター)へのインタビューから明らかにした。

(d) **歌・振り付けの環流**：映画制作する際に、どのような意図を持って歌やダンスが挿入されるのか、どのようにグローバルに受けようものか、またハリウッドのエッセンスをどのように地域語映画に落とし込むのかという点に関して、音楽コンポーザーや振付師に対して、出自も含めたバックグラウンドの聞き取りやインタビューをおこなった。

平成 31 年度(令和元年度)は、当初研究成果のまとめの年と位置づけたが、同年に成果公開促進費(図書)に採択されたため、1年目と2年目のデータすべてを成果として発表することができなかった。しかし、本研究課題で得られたデータの一部は、後述する単著のなかに提示することができた。

4. 研究成果

本研究は、グローバル化を志向するインドのハリウッド映画界と、地域に根ざした映画を制作するマハラシュトラ州のマラーティー語映画界の相関関係の分析を通じて、多層的に成立しているインドの文化産業の実態を明らかにする事を目的とした。

その結果、両映画界のあいだで、資本や技術、人材が循環していることが明らかとなった。規模の大きいハリウッド映画の制作によって得られた資本を用いて、低予算ではあるが制作者が創りたいと思う映画が地域語映画のなかで制作され、その際にハリウッド映画で得られた知識やモチーフなどを取り入れるなどの実践がみられた。また、こうした現象は映画界のみならず、申請者が博士課程の頃より取り組んできた大衆芸能タマシャーとも関連していることが明らかとなった。

研究の結果、大衆芸能の音楽や歌詞、踊りなども、映画のなかで踊りや歌として借用されていることが明らかとなり、地域語映画へ大衆芸能の要素が流れ込み、さらにそれがハリウッド映画へとさらに流れ込んでいくことが理解された。こうしたモチーフの借用構造は、

【大衆芸能 マラーティー語映画 ハリウッド映画】といった単線的なものではなく、ハリウッド映画のモチーフが、大衆芸能のなかに流れ込んでいくこともあり、インドの映画産業は独立して存在しているわけではなく、さまざまな文化産業との連関のなかで多層的に存在しているものであることが明らかとなった。

研究成果の一部は、単著『現代インドにおける大衆芸能と都市文化—タマシャーの踊り子による模倣と欲望の上演』(2020年、ナカニシヤ出版)のなかで、第3章および第4章に論文として発表をおこなった。

【参考文献】

Kavoori, A and Punathambekar, A eds, 2008 *Global Bollywood*, New York: New York University Press
Rao, S. 2007. "The Globalization of Bollywood: An Ethnography of non-Elite Audience in India", *Communication Review*, 10(1): 57-76.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 飯田玲子	4. 巻 36
2. 論文標題 欲望を演じる人々の現在 インド・マハーラーシュトラ州の大衆芸能タマーシャー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民族芸術学会誌 arts/	6. 最初と最後の頁 172-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Reiko Iida	4. 巻 -
2. 論文標題 VCD Culture: A Case Study of Manufacturing Process in Contemporary India	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Globalization of Indian Performing Arts in New Media Situation: Dynamics of Cultural Gyre(Workshop Proceedings)	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Reiko Iida
2. 発表標題 The Meaning and Power of the 'gaze' in Indian Performing Arts: The Case of Lavani in Maharashtra, India
3. 学会等名 International Conference on Asian Scholar (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Iida
2. 発表標題 Toward Writing about Popular Culture: A Case Study on Lavani in the State of Maharashtra, India
3. 学会等名 10th International Conference on International Convention of Asian Scholar (ICAS10) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Reiko Iida
2. 発表標題 Cross-Border Circulation within the Indian Film Industry
3. 学会等名 The 2nd Collaborative Symposium for Early Career Researchers Thinking across Boundaries: The Fluidity of Asia, Africa and Beyond (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Reiko Iida
2. 発表標題 Who are the Kolhati: Flexible Thinking about the Concept of Jati by Tamagiri Narratives in Maharashtra, India
3. 学会等名 JSPS Bilateral Workshop on Construction of Caste in Modern Maharashtra (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 飯田 玲子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 258
3. 書名 インドにおける大衆芸能と都市文化	

1. 著者名 石坂晋哉、宇根義己、舟橋健太 (編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 296
3. 書名 ようこそ南アジア世界へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------